

A 図書室で選ぶ理由

基礎から標準へ | 解答と根拠

記述は、必要な内容と条件がそろえば、解答例と表現が違っていても正答です。練習A～Cは点数を付けず、内容を確認しましょう。

問1 論点

答え：ウ

解説 ①で希望数だけによる選書に問いを立て、④～⑥で二つの役割を両立させる方法を示す。貸出期間・予算増額・授業教材の評価が中心ではない。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問2 根拠と推論

答え：ア

解説 例から言えるのは、出会いの前には希望にならない関心があるということ。ほかの選択肢は対象を広げすぎるか、必ず効果が出ると断定している。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問3 指示内容 12字

答え：生徒の希望と担当者の判断

解説 ④の最後の一文で、点検する二つの対象が明示されている。

確認する内容 抜き出しは完全一致で確認する。句読点も本文どおりに書く。

A 図書室で選ぶ理由

基礎から標準へ | 解答と根拠 | つづき

問4 反対意見への応答

答え：エ

解説 ③は反対の理由を認める譲歩であり、④の双方を点検できる提案につながる。希望数だけの選書への撤回でも、心配の無視でもない。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問5 条件を踏まえる

答え：イ

解説 短期間の数字だけに決めず、紹介や授業との関係を確認する。ただし説明しただけで優先し続けることも⑤は認めていない。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問6 譲歩の働き 解答例 67字

解答例：予算を無駄にしたいくないという心配を認めた上で、生徒と担当者の判断を互いに確かめる提案を示し、担当者への一方的な信頼に頼らないと分かる。

解説 反対意見を出すだけでなく、その理由を認め、提案の中でどう応じたかまで読む。

別解・許容 予算への心配を認め、希望の多い本と新分野の枠を両立し、理由を公開して一方的な提案を避ける、という説明も可。

確認する内容 予算を無駄にしたいくないという理由／判断の相互点検、または希望と未知の分野の両立と理由の公開／一方だけに頼らない説得力。字数・指定語句・文末も確認する。

A 図書室で選ぶ理由

基礎から標準へ | 解答と根拠 | つづき

問7 主張の条件 解答例 71字

解答例：筆者は希望の数を今の関心を知る手掛かりと認め、希望の多い本を選ぶ枠も提案しており、希望を捨てるのではなく、それだけで決めることを避けているから。

解説 「希望数だけで決めない」と「希望数を使わない」は異なる。①の評価と④の具体策を両方根拠にする。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。
確認する内容 ①で関心の手掛かりと認める／④で希望の多い本の枠を設ける／役に立たないのではなく単独基準にしないと区別。字数・指定語句・文末も確認する。

問8 要旨 解答例 65字

解答例：図書室は今の希望に応え、未知の関心との出会いも支えるため、選んだ理由を生徒と確かめ、利用の経過を踏まえて選び方を改めていくべきだ。

解説 具体的な図鑑名や枠の割合は要旨に不要。二つの役割と、理由の公開・購入後の改善という中心を結ぶ。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。
確認する内容 今の希望に応える／未知の関心に出会う／理由を確かめ合う／利用の経過による改善。字数・指定語句・文末も確認する。

B 失敗を次の判断にする

標準 | 解答と根拠

問1 主張

答え：イ

解説 ①の主張を②の例が具体化し、③～⑤で条件を整え、⑥で次の判断に使うとまとめる。数を増やすことや記録を後回しにすることは主張していない。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問2 例の狙い

答え：エ

解説 声量の改善が効いたように見えても、他の条件が関わる可能性がある。一度に変えることや担当者への聞き取りに限定していない。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問3 対比 12字

答え：出来事の条件を調べること

解説 ④の対比は責任の有無ではなく、改善のために調べる対象と責任を決めることとの区別である。

確認する内容 抜き出しは完全一致で確認する。句読点も本文どおりに書く。

B 失敗を次の判断にする

標準 | 解答と根拠 | つづき

問4 限定の役割

答え：ウ

解説 事前に防ぐこと、今回の条件と照合することという二つの限定を加える。失敗を賛美する極端な読みを防いでいる。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問5 適用

答え：ア

解説 条件の照合と次の変更につなげることが要点。責任者の選別、条件の省略、長さの固定は本文の提案ではない。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問6 反対意見への応答 解答例 69字

解答例：実際に試す時間の大切さは認めながら、長い反省文でなく次に変える点に必要な条件を短く残し、同じ失敗が続くときは条件を比べるよう提案している。

解説 譲歩を主張の撤回と読まない。記録を短くし、必要な場面で比較に使うという応答をまとめる。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違っていてもよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 試す時間を尊重／必要な条件だけを短く記録／失敗が続くときに条件を比較。

字数・指定語句・文末も確認する。

B 失敗を次の判断にする

標準 | 解答と根拠 | つづき

問7 論理を評価する 解答例 69字

解答例：筆者は行動への責任をなくすのではなく、本人が変えられる行動と周囲が変えられる環境を具体化することを優先しており、改善の必要を否定していない。

解説 区別しているのは記録の目的である。本人の行動と周囲の環境の双方を改善対象としている点が反論への根拠になる。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違っててもよい。本文にない事実を補わない。
確認する内容 責任をなくす主張ではない／本人の行動／周囲の環境を具体化する。 字数・指定語句・文末も確認する。

問8 要旨 解答例 67字

解答例：失敗時の条件と変更点を必要な範囲で残し、責任追及や正解の一覧にするのではなく、今の条件と比べて次に確かめる点や方法を選ぶ資料として使う。

解説 ②・③の記録内容と⑤・⑥の使い方を統合する。失敗は大事だ、で止めない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違っててもよい。本文にない事実を補わない。
確認する内容 条件と変更点／必要な範囲の記録／今回の条件との比較／次の方法や検証点の選択。 字数・指定語句・文末も確認する。

C 残す価値を使いながら問う

発展・応用 | 解答と根拠

問1 対立の整理

答え：エ

解説 ①は両者を固定的に対立させることで、部分や価値を具体的に検討しにくくなると述べる。ア～ウは本文の考えと両立する。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問2 中心概念 7字

答え：町の記憶の全て

解説 声を届けにくい人や町を離れた人の経験もあるため、現在の意見だけで全体とは見なせない。

確認する内容 抜き出しは完全一致で確認する。句読点も本文どおりに書く。

問3 具体例の構成

答え：イ

解説 閉じたままでは話を聞く機会、建て替えれば現物という手掛かりが失われうる。費用・安全性・住民全体の関心を示す例ではない。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

C 残す価値を使いながら問う

発展・応用 | 解答と根拠 | つづき

問4 表現の限定

答え：ウ

解説 多人数だけを批判して終わると少人数ならよいとの読みが生じる。末文がその逆の単純化も防いでいる。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問5 根拠の限界

答え：ア

解説 仮想の具体例は主張を理解する助けであって、条件の異なる全ての建物での実現を保証しない。筆者自身も資料や変更条件の検討を求めている。

確認する内容 本文の根拠とともに確認する。

問6 反論と条件 解答例 64字

解答例：変更で元に戻せなくなる心配を認め、変える部分と理由を記録して残す部分との関係を示し、可能なら元に戻せる方法を選ぶよう求めている。

解説 二つの条件は記録と可逆性。使用後の価値確認を含む別解も、二つを具体的に示せばよい。

別解・許容 「使い始めた後も価値が伝わっているかを確かめる」を条件の一つにしてもよい。二つを区別して示す。

確認する内容 元に戻せない心配を認める／本文の条件を具体的に二つ挙げる。字数・指定語句・文末も確認する。

C 残す価値を使いながら問う

発展・応用 | 解答と根拠 | つづき

問7 評価基準 解答例 73字

解答例：人数は利用の様子を知る材料にはなるが、訪れた人が建物の特徴や記憶にどう触れ、何を理解したかを示さず、人数の大小だけでは受け継ぐ価値を測れないから。

解説 人数の情報としての価値を認めつつ、人数で分からない質的な内容を挙げる。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 人数にも材料としての意味がある／特徴や記憶との接触／理解や価値は人数だけで判断不可。字数・指定語句・文末も確認する。

問8 主張を統合する 解答例 70字

解答例：残す価値を具体的に確かめて使い方を考え、利用から価値を問い直しながら、変更の理由や迷いも記録して次の人が判断できるように受け継ぐ関係である。

解説 保存してから活用するという単なる順序ではない。価値の確認が活用を導き、活用から価値を再検討する往復を読む。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

確認する内容 価値を確かめて活用／使われ方から再検討／変更理由や迷いも次代に残す。字数・指定語句・文末も確認する。

D 数字と目的の間

実力確認テスト | 解答と根拠 | 100点満点

配点のあるDのみ100点満点です。記述は内容ごとに部分点を付け、同じ不足を二重に減点しません。字数・条件も確認します。

問1 論点〔8点〕

答え：ウ

解説 ①から⑥まで、数字と目的の関係、材料の補足、次の改善を論じる。順位付けそのものや計算指導が中心ではない。

採点の目安 正答8点。

問2 対比の意味〔8点〕

答え：ア

解説 数字が同じでも内訳と意味が違うという対比である。どちらかだけを数えることや支援の順序を主張していない。

採点の目安 正答8点。

問3 比喩的表現〔8点〕 18字

答え：次に何をすべきかを参加者に伝える合図

解説 数字の基準が参加者の行動を方向付ける働きを、合図という言葉で表している。

採点の目安 完全一致で8点。句読点も本文どおりに書く。

D 数字と目的の間

実力確認テスト | 解答と根拠 | 100点満点 | つづき

問4 反対意見への応答 (8点)

答え：エ

解説 反対に含まれる問題を認め、数字を残したまま、場面や聞き取りで意味を確かめる方法を示す。

採点の目安 正答8点。

問5 根拠を検討する (8点)

答え：イ

解説 例は一般的な注意を具体化するが、目的や状況の異なる活動で同じ材料を使えると保証しない。⑤は選択の必要を加える限定であり撤回ではない。

採点の目安 正答8点。

問6 因果関係 (20点) 解答例 69字

解答例：質問の件数を増やすために一人一回の発言を求めると、疑問がなくても質問する行動が生まれ、必要なときに安心して尋ねるという目的から離れること。

解説 測った数字の意味が違う②と、測る基準が行動を変える③を分ける。質問の義務化から目的とのずれまで説明する。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

採点の目安 件数を増やす基準・一人一回6点／疑問がなくても質問する行動6点／安心して必要時に尋ねる目的とのずれ8点。内容点を合計後、字数・指定語句・文末などの形式不備があれば2点減点する(0点未満にしない)。同じ不足を重ねて減点しない。

D 数字と目的の間

実力確認テスト | 解答と根拠 | 100点満点 | つづき

問7 具体的提案〔20点〕 解答例 67字

解答例：友達同士で疑問を解決できたのか、尋ねたいのに尋ねられなかったのかを聞き取り、件数の減少が学びの改善か質問のしにくさを区別するとよい。

解説 本文から考えられる複数の原因を区別できる確認を提案する。本文にない結果を事実として決め付けない。

別解・許容 授業中の場面記録や、誰が質問しなくなったかの確認でも、目的と結び付けて理由を説明できればよい。

採点の目安 目的に関わる具体的な追加材料8点／件数だけでは分からない理由6点／減少の意味を区別し改善につなげる6点。内容点を合計後、字数・指定語句・文末などの形式不備があれば2点減点する（0点未満にしない）。同じ不足を重ねて減点しない。

問8 要旨と条件〔20点〕 解答例 69字

解答例：数字が活動の目的をどこまで表すかを確かめ、ずれを検討するための材料を負担に配慮して選び、判断の理由を共有しながら次の改善につなげるべきだ。

解説 ①の中心を④・⑤の条件、⑥の評価の目的とつなぐ。数字を捨てるという結論にしない。

別解・許容 解答例と同じ内容なら、語順や表現が違ってよい。本文にない事実を補わない。

採点の目安 目的と数字の対応6点／ずれを確かめる材料6点／負担への配慮3点／理由を示し改善へ5点。内容点を合計後、字数・指定語句・文末などの形式不備があれば2点減点する（0点未満にしない）。同じ不足を重ねて減点しない。